

新幹線プロジェクト
駅周辺土地利用・新産業立地

土地利用の検討内容

③ 駅前市有地の土地利用

駅前市有地(約3000㎡)は、新幹線駅前という優位な立地条件を生かし、商業を営む者が進出できる用地とします。市ではこの土地を駅前空間の重要な場所として位置づけ「土地の細分化・転売による乱開発防止」や「良好な景観の創出」・「適正な業種の立地」のため、当面、土地を売却するのではなく土地所有者として開発に係わっていくこととします。一定程度の条件をつけながら、市内外の出店希望者に土地の貸付を行い駅前商業の発展を促します。

●土地利用例



ケース1 小規模店舗分散型土地利用+駐車場
商業規模により店舗の規模を各々自由に設定することができる。



ケース2 中規模店舗集合型土地利用+駐車場
商業者が出資しあいながら一つの店舗内で営業する。

① 駅西線

駅西線については、新幹線駅西口へのアクセス道路として、また周辺の土地利用を進めるため駅西側の丘陵のふもとに既存道路を活用しながら、下記のとおり3区間に分けて整備します。

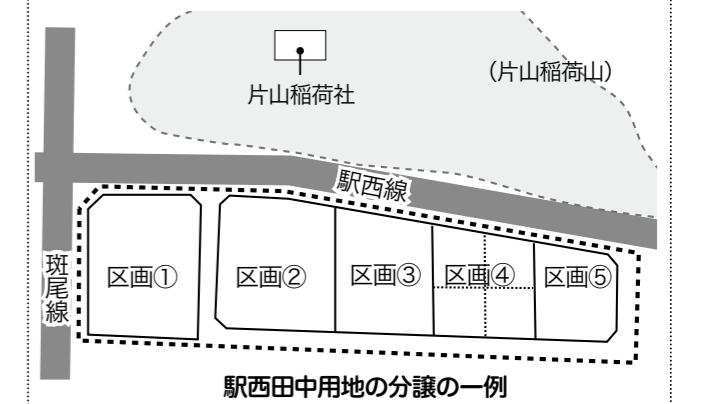
- (ア) 新幹線駅西口から柘の浦入口まで(区間A)
金山、松倉方面からの駅西口へのアクセス道路として現道を拡幅・整備します。
- (イ) 県道斑尾線交差点から新幹線駅西口まで(区間B)
駅西口への進入路として、新幹線駅・在来線駅利用者の利便性を考慮して道路を新設・整備します。
- (ウ) 県道斑尾線交差点から西敬寺方面(区間C)
駅西田中地籍の土地を企業向けに分譲するため現道を拡幅・整備します。

② 駅西田中地籍の土地利用

駅西田中地籍については、土地の持つ特長からソフト産業などの企業誘致向け分譲用地(大規模な工場は想定しない)として位置づけます。用地造成は進出を希望する企業との協議により進めていきます。

●企業用分譲地計画(案)

- ◇分譲地面積…約1万1000㎡(緑地部分を除く)
新幹線駅より徒歩5分
- ◇1画地を2000㎡前後で設定
- ◇外周に区画道路(幅6メートル)を配置することで企業要望により1画地を分割分譲することも可能。また区画を集約することも可能
- ◇南側幹線道路(斑尾線)や東側JR構内との間に緩衝緑地を設けることにより、分譲地内の環境を整える



駅西田中用地の分譲の一例

新幹線プロジェクト 回遊性のあるまちづくり、 観光施策・機能の充実

計画策定の趣旨

北陸新幹線飯山駅開業は、都会からの旅行者等、交流人口の増加による地域の発展が期待できます。一方、移動時間の短縮により、日帰りや通過客が増え、宿泊客が減る危険性も考えられます。

駅の開業を好機として地域の活性化を図るためには、地域が一丸となって観光まちづくりを行い、魅力あるまち、訪れたいまちを創出することが重要となります。

そこで飯山市では、市民、観光事業者、行政が協働し地域資源を核とした特色ある観光まちづくりを進めるための計画を策定します。

主な対象、目標を設定

より効果的に魅力あるま

まちづくりの目標

- ①回遊性のある「まちなか観光」
観光の核を創出し、飯山の四季を感じさせる花の演出により回遊性のある「まちなか観光」を目指します。
- ②回遊性のある「飯山市観光」
観光の核を磨き、観光商品の充実により回遊性のある「飯山市観光」の展開を目指します。
- ③広域観光連携の取り組み
上信越高原の観光の玄関口として、広域観光の連携強化を推進します。

ちづくりを進めるため、新幹線を利用し飯山を訪れるお客様は、取り組むべき課題を整理しました。検討の結果、現在の旅行形態のほとんどは中高年の女性が行うドライバーシップを取っていると分析。このこ

とから主な誘客対象として「都市住民、中高年、特に女性」に、また近年増加の兆しが見える「外国人」も想定することとしました。また、「地域ブランドの構築をすすめる、住民の誇りを醸成するとともに地域の経済効果を高める」ことを主としたまちづくりの目標を設定しました。

広域観光連携の取り組み

飯山市周辺の上信越高原国立公園には、自然を生かした豊富な観光資源がありますが、各市町村単独の観光商品では、新幹線駅として並ぶ金沢、富山、長野等の観光地と比較したときに埋没してしまう恐れがあります。

飯山市ではこれまでに、近隣市町村に対し、このアクションプラン案の説明を行い、広域観光連携についての取り組みを呼びかけました。

今後は「広域観光連携協議会」の発足を視野に入れ、地域一丸となって魅力ある観光振興に取り組んでいきたいと考えています。

「回遊性のある飯山市観光」イメージ

